

傍聴者からの声



西富 井上孝一さん

「議会傍聴記」

3月9日、22年第1回定例議会傍聴の機にあり、数年ぶりに議場に臨む。

一番後列にある議長席「長屋和敏」の表札は倒れたまま空席となつている。主のいなくなったデスクには白い菊の花が飾られ虚しい。

10時開会に先立ち、小松議員より3月2日に逝去した故長屋議長の追悼演説があり合わせて黙祷が行われた。

町の人口減に伴い議員定数も10名に減り、広い議場には議長・副議長を除き8名の議員が悠々と席を占有するも主のいない空席が目立ち、いと寂しき感あり。

めて議会傍聴で激励し、それが勉強の機会を作るべきである。

22年度の一般会計予算が45億円で、前年対比11%減、特別会計25億で1%増、合計69億円で7%の減、遠軽厚生
の脳神経外科医減員、佐呂間厚生内科医不在対策：等、大きな問題が残るを知る。

又、聞きなれない「命のバトン」「集落支援員」など、日頃耳にしない言葉や介護施設の入居と経済関係：等、多くの諸問題を研究することなくいたずらに敬遠し、難しい問題には背を向ける習性が身についた私たち、大いに反省をさせられる一日であった。

今後とも、議会傍聴を通して大いに勉学を深め、老後の教養と人格形成に役立てたい。



議会だよりに対するご意見・ご感想を

お寄せ下さい！

----- 議会事務局宛て -----
TEL 2-1291

Eメール

gikai@town.saroma.hokkaido.jp

あとがき

「サロマ湖近況」

今年のサロマ湖内の氷の張り具合は、当初は暖冬で張らないのではないかと思つていた所、一月末から冷え込み全面結氷となり一安心した次第でした。

しかし、その結氷の期間が短いものとなり、その影響が出なければよいのですが、自然界の事は我々の予測不能の場合も多くあり、やはりその時期その時期に起こるものがないとその一年が心配になってきます。

特に自然と向き合つて生活している私達には、気がかりなことです。

子供の頃は、今の状態になることを誰も考えなかつたはずなのに、50年後はオホーツク海に流氷がなくなるのではと予測する人もいます。

サロマ湖の氷も張らないのが当たり前になるのかも…。

この湖を良い状態で後の代まで残してあげなければならぬと思ひます。

(船木 司)